

Episode1

僕の首筋を舌が這っていく。首筋は感じるところだ。このお客さんは結構上手だ。あまり力を入れずに舐めてくれる。こういうお客さんは安心してきる。手が優しく体を撫でまわし、陶酔の世界へいざなってくれる。初めて来たお客さんだけど、なかなか上手い。慣れているようだった。

僕は今二十三歳で、女装男子の風俗店「シルクボーイ」で働いている。

この風俗店が他の店と違う所は、客の相手をするのが女装子というところだ。普通は若くて可愛い女の子なのだが、それがニューハーフという店もある。この店では僕たち女装子が相手をするのだ。

ニューハーフならまだしも、女装子が相手の店なんて客が来るのか？

と疑問に思っていたが、これが結構忙しくて驚いた。平日でもかなり来てくれる。土日などは休憩時間もないほど忙しい。

ニューハーフと女装子の違いは何かというと、ニューハーフというのは体をいじって、女性の体に近づけていることだ。女装子はそんなことはない。ただメイクをして、女性の服や下着を身に付けるだけなのだ。体は男のままだ。そんなのにお金を出す男がいるのだから、世の中面白いと思っただ。

つまり男対男なのだが、ゲイとはまた違う。お客さんは女装しているの
がいいのだ。きつとそれは女ではダメなのだと思う。ここに来るお客さん
はかなりマニアックだ。

お店のシステムは普通の風俗店と同じだ。待合室でコースを選んで、写真を見て好きな女装子を選ぶという単純明快なシステムだ。四〇分コース、六〇分コース、九〇分コース、一二〇分コースに分れていて、サービス料も一万円から二万四千円と様々だった。

僕の源氏名は「塔子」^{とうこ}で、指名客は「トコちゃん、トコちゃん」と呼ん

でくれる。この仕事が僕には合っている。何故かと言うと、僕は男の子でありながら、女装をして男性に抱かれるのが好きだからだ。

その時だけは女になれるし、女の子の気持ちになれるからだ。僕は常々女として男に抱かれない願望を持っていた。かといって性対象が男というわけではない。男の自分でいる時は、女性が対象だ。男に抱かれないと思う時は自分が女装をしている時だけだ。

